

環境人間工学

担当教員： 林 聡太郎

履修年次・区分： 3・4年（展開－計画・デザイン－選択）

授業のテーマ： 環境と人間の関係について、各種環境測定の実習を講義とあわせて実施することにより、建物が人間に及ぼす影響について科学的に理解する能力を身につける。特に建築士として必要な建物の設計における人間の健康に配慮した住宅設計の重要性について具体的な事例を通して学修する。

この日の授業内容： ヒトの関節



ヒトの関節には、膝のように一つの軸で動くもの、手首のように前後、側方の二軸で動くもの、肩や股関節のように三軸以上を中心として動くものがあります。

関節には可動域が存在し、緊張を伴う動作には様々な“疲労”を惹起します。したがって、ヒトが楽に作業できる域値を知ることによって、新たな道具などのデザインを考えることが可能となります。例えばそれは、椅子の構造、PCのマウスの傾きなど、多岐にわたります。

(2017年1月取材)